

数学補習プログラム（社会人院生向け）

トピック 5：多変数関数とその 1 階偏微分

北村友宏*

2016年3月19日

1 多変数関数（参考書上巻 pp.35-37）

- 説明変数が 2 つ以上の関数を多変数関数という。
e.g. ある財を製造している企業の「財の生産量 Y 」は「資本量 K 」と「労働雇用量 L 」の 2 つによって説明され、

$$Y = K^{\frac{1}{2}}L^{\frac{1}{2}}$$

という数式で表されているとする。

- ★ 説明変数は K と L の 2 つ。被説明変数は Y 。
- ★ K と L の値の組み合わせそれぞれに対して Y の値が、 $Y = K^{\frac{1}{2}}L^{\frac{1}{2}}$ というルールでただ 1 つに（一意に）決まる。
例えば「 $K = 9$, $L = 4$ 」のとき $Y = 9^{\frac{1}{2}}4^{\frac{1}{2}} = 3 \cdot 2 = 6$ 。
⇒ Y は K と L の関数。
- ★ 生産量や生産額を説明する関数を、経済学では生産関数という。
- ★ 関数形（ Y の決定ルール）を特定化せず、一般化して

$$Y = f(K, L)$$

と書くこともできる。右辺の $f(K, L)$ は K と L の関数という意味。

- ★ $f(K, L) = K^{\frac{1}{2}}L^{\frac{1}{2}}$ と書いてもよい。
- 「資本量、労働雇用量と生産量」以外の、2 変数と別の変数の間の関係も、多変数関数を用いて表すことができる。一般的には、 $z = f(x, y)$ や $z = f(x_1, x_2)$ と書くことが多い。
- 説明変数が 3 個以上あってもよい。説明変数が n 個の場合、一般的には、

$$z = f(x_1, x_2, \dots, x_n)$$

と書くことが多い。

* Email: kitamu.tom@gmail.com URL: <http://tomkitamura.html.xdomain.jp>

2 多変数関数の1階偏微分 (参考書上巻 pp.228-234)

- e.g., 多変数関数

$$z = f(x_1, x_2, \dots, x_n)$$

を, 特定の変数 x_1 に関して偏微分すると, 「他の説明変数 x_2, x_3, \dots, x_n の値を一定 (変化しない) として, x_1 が微小に変化したとき, その関数の値 z がどの程度変化するか」を求めることができる (「偏微分」の定義は後述).

- 多変数関数

$$z = f(x_1, x_2, \dots, x_n)$$

において, z の x_1 に関する偏導関数は,

$$\frac{\partial z}{\partial x_1}$$

と書く.

- 偏導関数を求めるプロセスを偏微分という.

★ $\frac{\partial z}{\partial x_1}$ を求めることを, 「 z を x_1 に関して偏微分する」や「 z を x_1 について偏微分する」と表現する.

- z を x_1 以外の1つの変数に関して偏微分することもできる. x_2 に関する偏導関数は $\frac{\partial z}{\partial x_2}$, x_3 に関する偏導関数は $\frac{\partial z}{\partial x_3}$, ..., i 番目の変数 x_i に関する偏導関数は $\frac{\partial z}{\partial x_i}$, ...

- 関数を1回のみ偏微分することを1階偏微分といい, それによって求められた導関数を1次偏導関数または1階の偏導関数という.

★ z の x_i に関する偏導関数は, $\frac{\partial z}{\partial x_i}$ 以外にも, 次のような書き方がある.

$$\frac{\partial}{\partial x_i} z, \frac{\partial f(x_1, x_2, \dots, x_n)}{\partial x_i}, \frac{\partial f}{\partial x_i}(x_1, x_2, \dots, x_n), \frac{\partial}{\partial x_i} f(x_1, x_2, \dots, x_n).$$

$\frac{\partial}{\partial x_i}$ は, 「 x_i について (ある関数の) 偏導関数を求める」や「(ある関数を) x_i で偏微分する」という意味の記号であると考えることができる.

* $z = f(x_1, x_2, \dots, x_n)$ の1次偏導関数は, $\frac{\partial z}{\partial x_1}$ を f_1 , $\frac{\partial z}{\partial x_2}$ を f_2 , ... と書くこともある.

* $z = z(x_1, x_2, \dots, x_n)$ の1次偏導関数は, $\frac{\partial z}{\partial x_1}$ を z_1 , $\frac{\partial z}{\partial x_2}$ を z_2 , ... と書くこともある.

* $z = f(x, y)$ の1次偏導関数は, $\frac{\partial z}{\partial x}$ を f_x , $\frac{\partial z}{\partial y}$ を f_y と書くこともある.

* $z = z(x, y)$ の1次偏導関数は, $\frac{\partial z}{\partial x}$ を z_x , $\frac{\partial z}{\partial y}$ を z_y と書くこともある.

⇒ これらは「何番目の説明変数で偏微分するか」の数字, または「どの説明変数で偏微分するか」の変数名を関数の記号の添え字として書く表記法.

例題 2.1

$z = 2x_1^{\frac{1}{2}} + 3x_1x_2 + 4x_2^{\frac{1}{2}}$ の x_1 と x_2 に関する1次偏導関数を求めなさい.

解法

- x_1 に関する 1 次偏導関数を求める (1 階偏微分する) ときは, x_1 以外の説明変数 (x_2) を定数として扱う.
⇒1 変数関数の微分と同様の方法で, x_1 に関して微分する.
- x_2 に関する 1 次偏導関数を求める (1 階偏微分する) ときは, x_2 以外の説明変数 (x_1) を定数として扱う.
⇒1 変数関数の微分と同様の方法で, x_2 に関して微分する.

$$\frac{\partial z}{\partial x_1} = \underbrace{2}_{\text{定数}} \cdot \frac{1}{2} x_1^{\frac{1}{2}-1} + \underbrace{3}_{\text{定数}} \cdot 1 x_1^{1-1} \underbrace{x_2}_{\text{定数}} + \underbrace{0}_{\text{定数の微分}} = x_1^{-\frac{1}{2}} + 3 \underbrace{x_1^0}_{=1} x_2 = x_1^{-\frac{1}{2}} + 3x_2,$$

$$\frac{\partial z}{\partial x_2} = \underbrace{0}_{\text{定数の微分}} + \underbrace{3x_1}_{\text{定数}} \cdot 1 x_2^{1-1} + \underbrace{4}_{\text{定数}} \cdot \frac{1}{2} x_2^{\frac{1}{2}-1} = 3x_1 \underbrace{x_2^0}_{=1} + 2x_2^{-\frac{1}{2}} = 3x_1 + 2x_2^{-\frac{1}{2}}.$$

例題 2.2 $z = x^{\frac{2}{3}} y^{\frac{1}{3}}$ の x と y に関する 1 次偏導関数を求めなさい.

解法

- x に関する 1 次偏導関数を求める (1 階偏微分する) ときは, x 以外の説明変数 (y) を定数として扱う.
⇒1 変数関数の微分と同様の方法で, x に関して微分する.
- y に関する 1 次偏導関数を求める (1 階偏微分する) ときは, y 以外の説明変数 (x) を定数として扱う.
⇒1 変数関数の微分と同様の方法で, y に関して微分する.

$$\frac{\partial z}{\partial x} = \frac{2}{3} x^{\frac{2}{3}-1} \underbrace{y^{\frac{1}{3}}}_{\text{定数}} = \frac{2}{3} x^{-\frac{1}{3}} y^{\frac{1}{3}},$$

$$\frac{\partial z}{\partial y} = \underbrace{x^{\frac{2}{3}}}_{\text{定数}} \cdot \frac{1}{3} y^{\frac{1}{3}-1} = x^{\frac{2}{3}} \cdot \frac{1}{3} y^{-\frac{2}{3}} = \frac{1}{3} x^{\frac{2}{3}} y^{-\frac{2}{3}}.$$

例題 2.3 $z = (x_1^2 + x_2^2)(x_1 - x_2)$ の x_1 と x_2 に関する 1 次偏導関数を求めなさい.

解法

- 2 つの関数の積の形となっており, どちらの関数も x_1 と x_2 の関数.
⇒ 積の微分を用いる.

$$\begin{aligned}
\frac{\partial z}{\partial x_1} &= \left(\frac{\partial}{\partial x_1} [x_1^2 + x_2^2] \right) (x_1 - x_2) + (x_1^2 + x_2^2) \frac{\partial}{\partial x_1} [x_1 - x_2] \\
&= (2x_1^{2-1} + \underbrace{0}_{\text{定数の微分}}) (x_1 - x_2) + (x_1^2 + x_2^2) (1x_1^{1-1} - \underbrace{0}_{\text{定数の微分}}) \\
&= 2x_1(x_1 - x_2) + (x_1^2 + x_2^2) \cdot \underbrace{x_1^0}_{=1} \\
&= 2x_1^2 - 2x_1x_2 + x_1^2 + x_2^2 \\
&= 3x_1^2 - 2x_1x_2 + x_2^2, \\
\frac{\partial z}{\partial x_2} &= \left(\frac{\partial}{\partial x_2} [x_1^2 + x_2^2] \right) (x_1 - x_2) + (x_1^2 + x_2^2) \frac{\partial}{\partial x_2} [x_1 - x_2] \\
&= (\underbrace{0}_{\text{定数の微分}} + 2x_2^{2-1})(x_1 - x_2) + (x_1^2 + x_2^2) (\underbrace{0}_{\text{定数の微分}} - 1x_2^{1-1}) \\
&= 2x_2(x_1 - x_2) + (x_1^2 + x_2^2) \cdot (-1) \cdot \underbrace{x_2^0}_{=1} \\
&= 2x_1x_2 - 2x_2^2 - (x_1^2 + x_2^2) \\
&= 2x_1x_2 - 2x_2^2 - x_1^2 - x_2^2 \\
&= -x_1^2 + 2x_1x_2 - 3x_2^2.
\end{aligned}$$

例題 2.4 $z = \frac{x-y}{x+y}$ の x と y に関する 1 次偏導関数を求めなさい。

解法

- 2 つの関数の商の形となっており、どちらの関数も x と y の関数。
 \Rightarrow 商の微分を用いる。

$$\begin{aligned}
\frac{\partial z}{\partial x} &= \frac{\left(\frac{\partial}{\partial x}[x-y]\right)(x+y) - (x-y)\frac{\partial}{\partial x}[x+y]}{(x+y)^2} \\
&= \frac{\overbrace{(1x^{1-1} - 0)}{\text{定数の微分}}(x+y) - (x-y)\overbrace{(1x^{1-1} + 0)}{\text{定数の微分}}}{(x+y)^2} \\
&= \frac{x^0(x+y) - (x-y)x^0}{(x+y)^2} \\
&= \frac{x+y-x+y}{(x+y)^2} \\
&= \frac{2y}{(x+y)^2}, \\
\frac{\partial z}{\partial y} &= \frac{\left(\frac{\partial}{\partial y}[x-y]\right)(x+y) - (x-y)\frac{\partial}{\partial y}[x+y]}{(x+y)^2} \\
&= \frac{\overbrace{(0 - 1y^{1-1})}{\text{定数の微分}}(x+y) - (x-y)\overbrace{(0 + 1y^{1-1})}{\text{定数の微分}}}{(x+y)^2} \\
&= \frac{-y^0(x+y) - (x-y)y^0}{(x+y)^2} \\
&= \frac{-(x+y) - (x-y)}{(x+y)^2} \\
&= \frac{-x-y-x+y}{(x+y)^2} \\
&= -\frac{2x}{(x+y)^2}.
\end{aligned}$$

-
- 関数 $z = f(u)$ を考える。また、 u は多変数関数で、 x と y の関数であるとする。つまり、 $u = g(x, y)$ とする。 z を x_1 で、そして x_2 で偏微分したい。
 $\Rightarrow u = g(x, y)$ なので、 $z = f[g(x, y)]$ と書くことができる。
 $\Rightarrow z$ の説明変数 u の部分に別の関数 $u = g(x, y)$ が入っている。
 $\Rightarrow z = f[g(x, y)]$ は合成関数。
★ e.g., $z = (2x + 3y)^2$ は合成関数。
 $\because u = 2x + 3y$ とすると、 $z = u^2$ というべき関数の説明変数 u の部分に別の関数 $u = 2x + 3y$ が代入されているから。

合成関数の偏微分： $z = f(u)$ と $u = g(x, y)$ について、 $z = f[g(x, y)]$ とすると、

$$\frac{\partial z}{\partial x} = \frac{dz}{du} \frac{\partial u}{\partial x}, \quad \frac{\partial z}{\partial y} = \frac{dz}{du} \frac{\partial u}{\partial y}.$$

- $z = f(u)$ は 1 変数関数なので、これの u に関する 1 次導関数は $\frac{dz}{du}$ と書く。
- $u = g(x, y)$ は多変数関数なので、これの x と y に関する 1 次偏導関数はそれぞれ、 $\frac{\partial u}{\partial x}$, $\frac{\partial u}{\partial y}$ と書く。

例題 2.5 $z = 3(x^{\frac{1}{4}} + y^{\frac{1}{4}})^3$ の x と y に関する 1 次偏導関数を求めなさい.

解法

- $u = x^{\frac{1}{4}} + y^{\frac{1}{4}}$ とすると, $z = 3u^3$ となり, 説明変数 u の部分に別の多変数関数が代入された合成関数の形となる.
⇒ 合成関数の偏微分を適用する.
- 合成関数の微分の適用後, u は必ず元の形 $x^{\frac{1}{4}} + y^{\frac{1}{4}}$ に戻す.

$u = x^{\frac{1}{4}} + y^{\frac{1}{4}}$ とすると, $z = 3u^3$ となる.

$$\begin{aligned}\frac{\partial z}{\partial x} &= \frac{dz}{du} \frac{\partial u}{\partial x} \\ &= \underbrace{\frac{d}{du} [3u^3]}_{\frac{dz}{du}} \cdot \underbrace{\frac{\partial}{\partial x} [x^{\frac{1}{4}} + y^{\frac{1}{4}}]}_{\frac{\partial u}{\partial x}} \\ &= 3 \cdot 3u^{3-1} \cdot \left(\frac{1}{4}x^{\frac{1}{4}-1} + \underbrace{0}_{\text{定数の微分}} \right) \\ &= 9u^2 \cdot \frac{1}{4}x^{-\frac{3}{4}} \\ &= \frac{9}{4} \underbrace{u^2}_{=x^{\frac{1}{4}}+y^{\frac{1}{4}}} x^{-\frac{3}{4}} \\ &= \frac{9}{4} (x^{\frac{1}{4}} + y^{\frac{1}{4}})^2 x^{-\frac{3}{4}}, \\ \frac{\partial z}{\partial y} &= \frac{dz}{du} \frac{\partial u}{\partial y} \\ &= \underbrace{\frac{d}{du} [3u^3]}_{\frac{dz}{du}} \cdot \underbrace{\frac{\partial}{\partial y} [x^{\frac{1}{4}} + y^{\frac{1}{4}}]}_{\frac{\partial u}{\partial y}} \\ &= 3 \cdot 3u^{3-1} \cdot \left(\underbrace{0}_{\text{定数の微分}} + \frac{1}{4}y^{\frac{1}{4}-1} \right) \\ &= 9u^2 \cdot \frac{1}{4}y^{-\frac{3}{4}} \\ &= \frac{9}{4} \underbrace{u^2}_{=x^{\frac{1}{4}}+y^{\frac{1}{4}}} y^{-\frac{3}{4}} \\ &= \frac{9}{4} (x^{\frac{1}{4}} + y^{\frac{1}{4}})^2 y^{-\frac{3}{4}}.\end{aligned}$$

- $u = x^{\frac{1}{4}} + y^{\frac{1}{4}}$ とせずに、以下のように書いてもよい。

$$\frac{\partial z}{\partial x} = 3 \cdot 3 \left(x^{\frac{1}{4}} + y^{\frac{1}{4}}\right)^2 \cdot \frac{1}{4} x^{\frac{1}{4}-1} = \frac{9}{4} \left(x^{\frac{1}{4}} + y^{\frac{1}{4}}\right)^2 x^{-\frac{3}{4}},$$
$$\frac{\partial z}{\partial y} = 3 \cdot 3 \left(x^{\frac{1}{4}} + y^{\frac{1}{4}}\right)^2 \cdot \frac{1}{4} y^{\frac{1}{4}-1} = \frac{9}{4} \left(x^{\frac{1}{4}} + y^{\frac{1}{4}}\right)^2 y^{-\frac{3}{4}}.$$

.....